

困っていない歯科

歯科医師は増え続け、開業もままならず
巷ではワーキングプアなどと言われ、歯科医は非常に困っている。

普通に考えれば歯科医師がこれだけ困っているのだから、
患者である国民も困っているかと思いきや、国民はほとんど歯科では困っていない。

たとえ自分に子供がいなくても、妊婦でなくても
小児科や産婦人科が困っていると国民は「とても困る」と言う。

この差はいったい何なのであろう？

「多すぎる」と「少なすぎる」には大きな差があるのはもちろんだが、
問題はそれだけではないと思う。

歯科は困りすぎていても、困ったところを見せないようにする。
そして患者に不自由が無いようにするという、
たいへん国民にはありがたい行動にでているのだ。

それは何も歯科医師が聖人だからではない。
生き残りの為には「うちは特別ですよ」
というのを見せなければならないからだ。
それは外観も中身も。

本当にお金がない人は「お金がない」とは言えない。
本当にないのだから、言ったらお終いと思っているのだ。

国民が困っていないものを、国だって真剣に考えることはあり得ない。

そうやって歯科はあと何年、自分や仲間の足を食べて生きていくのだろう。

2010/01/18
by the people

